

昭和村誕生について

本村の前身となる村の1つである久呂保村は、明治22年の町村制施行により、森下村、椽久保村、川額村の3村が合併して発足し、その後、昭和23年4月に勢多郡赤城村(旧敷島村)の一部である永井地区を合併した。

もう1つの村である糸之瀬村も同様に、明治22年の町村制実施の際に、糸井村、貝野瀬村が合併し、両村名の文字をとって糸之瀬村と名付けられた。

その後、昭和33年11月1日に久呂保村と糸之瀬村が合併して昭和村が誕生し、昭和36年8月1日に沼田市利根町(旧利根村)の一部である生越地区を境界変更により合併し現在に至っている。

さて、村内の地名の由来を紹介したい。

旧村名である久呂保は、万葉集に「賀美都家野久呂保乃禰呂乃久受葉我多可奈師家兒良爾伊夜射可里久母」と詠まれた歌に登場する。久呂保乃禰呂とは、赤城山の黒檜嶽(山)にちなんで名付けられたという。

大字森下は、南北朝時代にさかのぼる。建武3年に新田義貞と足利尊氏が兵庫で戦った折、

伊予(愛媛)の武士、大森彦七が足利氏に味方して、新田方の名将・楠木正成を自害に追い込んだ。この功績で、彦七は多くの恩賞を与えられたが、正成の怨霊に取り憑かれてひどく苦しむ、その罪滅ぼしのために各地の神社仏閣を巡った。その中で、遍照寺にも立ち寄り、境内の森に一つのお社を建て、十六善神の絵像を奉納した。これ以来、この森を大森と呼ぶようになり、大森神社の森の下の方に村ができたことから、この地を森下村と呼ぶようになった。

大字糸井には伝説がある。昔ここに一人の長者(権力者)が住んでいた。彼は、亡くなった母親を供養するために阿弥陀堂を建てようとしたが、近くに水がなかった。そこで、川向こうにある大墓坂、今の白清水という場所にある湧き水を、糸をつなぎ合わせて引いてきたことに由来する。

参考資料 利根郡誌、村誌「久呂保」、糸之瀬村誌、我が赤城根村、万葉集東歌解釈(新藤知義著)

昭和村ボランティアガイドの会

事務局長 島田 民夫



春バテに注意しましょう

春バテとは？

春バテとは、あまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、冬から春へと季節が移り変わる時期に、環境や生活リズムの変化が原因で、心身にさまざまな不調が起きることです。

春は暖かくなり活動的になれる季節ですが、体にとっては大きな変化の連続です。特に高齢の方は若い世代に比べて、こうした季節の変わり目の影響を受けやすいです。

春バテの予防方法

Point 1

ぐっすり眠って、
身体を休める



朝に太陽の光を浴びて、夜はなるべくぬるめのお風呂で入浴しましょう。

寝る前のスマホやテレビは控え、疲れを感じる前に休みましょう。

Point 2

のどが渇く前に
こまめに水分をとる



春は意外と汗をかきます。身体が「のどが渇いた」と感じる前に、こまめに飲み物を口にしましょう。

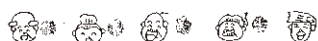
水やお茶だけでなく、体に吸収されやすい「経口補水液」を上手に使いましょう。

Point 3

栄養のあるものを
バランス良く食べる



疲れをとる豚肉や納豆、体を守るブロッコリーやイチゴ、体を作るお魚や卵を意識して食べましょう。



問合せ 地域包括支援センター ☎ 30-2121

